

**全国の高等専門学校の先陣を切って、平成17年度認証評価を受け、「大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている」と判定されました。**

学校教育法が改正され、「高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育、研究、教育課程、組織、運営、施設、設備等を含む総合的な状況について、7年以内ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価期機関という）による評価を受けなければならない」旨定められました。これを機関別認証評価といいます。

高等専門学校への機関別認証評価は、平成17年度から、「独立行政法人 大学評価・学位授与機構」を認証評価機関として開始されました。

## **I. 優れた点**

その評価の結果、基準1～11について優れた点として挙げられた主なものは以下の点です。

### **○教員の表彰**

教員による自己評価や学生・教員の投票などによって、教育功労者表彰やティーチャー・オブ・ザ・イヤーなどの独自の教員表彰制度が実施されている。特に、ティーチャー・オブ・ザ・イヤーの受賞者についてはネームプレートが校内に掲示されており、教員の教育意欲の向上や組織の活性化に関し、効果が上がっている。

### **○創造性教育**

創造性を育む教育方法として、準学士課程では、複数学科の内容を融合させたテーマを実習させる「創造実習」が実施されている。また、専攻科課程では、「創造工学演習」において、学生を少人数のグループに編成し、学生自らが社会のニーズ等に配慮した課題を設定させ、グループ別に企画、設計、製作及び情報機器を利用したプレゼンテーション等を行わせており、これにより学生の研究能力、開発能力、コミュニケーション能力等の育成を図っている。

### **○社会とともに次世代を教育**

インターンシップとして、準学士課程の4年次に、宮城県内外の企業において就業体験を行う「校外実習」が選択科目として設定され、ほぼ全員が履修している。また、専攻科課程では、1年次において、1～2か月に及ぶ「長期インターンシップ」が必修科目として設置され、学生が企業等の現場における問題に対応する経験を積ませている。これらの取り組みにより、教育の目的に沿った成果が十分に上がっている。

### **○就職**

卒業生・修了生の就職先は、各学科・各専攻の特性に応じた機械・電機・土木・化学・情報・通信関連などの、専門分野と関連した製造業が中心となっており、就職希望者に対する求人倍率11.6倍(平成15年度～平成17年度平均)就職決定率が100%と極めて高く、就職先の企業からも高い評価を得ている状況から、教育の目的に沿った成果が十分に上がっている。

### **○教科書の作成と出版**

教員の研究成果を盛り込んだ教科書が複数出版され、授業においても使用されているなど、教員の研究が、教育の質の向上に結び付いている。

## 【選択的評価基準】

本校はまた、上記の評価基準に加えて、下記の2つの「選択的評価基準」を設け、これについての評価も受けました。

- ・「研究活動の状況」について  
「目的の達成状況が良好である」

と判定されました。

この選択的評価基準における主な優れた点として、次の点が挙げられました。

○ **地域共同テクノセンターに対する地域産業界を中心とした技術相談件数の増加、特定研究部門における助成金の採択及び外部資金の受入額の増加など、研究の目的に照らして大きな成果が上がっている。**

- ・「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」について  
「目的の達成状況が良好である」

と判定されました。

この選択的評価基準における主な優れた点として、次の点が挙げられました。

○ **出前授業「リカレンジャー」**

小・中学校等に実験器具を搭載したトラックで出向き、物理や化学の実験、コンピューターの操作など、理科に関する出前授業を行う「リカレンジャー」プロジェクトが積極的に行われており、教育サービスの目的に沿った活動の成果が十分に上がっている。

## Ⅱ. その他の優れた点

○ **混合学級**

1年次及び2年次では、学科の枠を越えた混合学級編成が行われており、他学科の学生との交友関係を深めることで学習意欲の向上が図られていることなど十分な成果が上がっている。

○ **専攻科課程**

特別研究については、学会発表が原則として義務付けられており、また、1年次における中間発表及び2年次における最終発表では、当該分野の博士の学位をもった複数の教員による質疑応答を含む審査が行われ、それらの結果、研究内容について学会発表を行えるレベルまでの研究指導が行われている。

○ **奨学金貸与制度**

後援会による、学生への奨学金貸与制度が独自に制定されており、学生に対する財政的支援が行われているなど、学生の経済面に対する多様な支援体制が整えられている。

○ **進路指導**

進路指導の資料として、毎年「就職・進学のためのガイドブック」が発行され、1年次から就職・進学に関する有用な情報が提供されており、学生に有効に活用されている。

など多数挙げられています。

### Ⅲ. 改善を要する点

準学士課程の学習・教育目標について、学生による入学時から卒業時点までの全体的な授業評価の中で、各科目毎の自己の達成度は調査していますが、自己の学習達成度の評価が直接的には行われていない。

との指摘を受けました。本校では「学習等達成度記録簿」(ポートフォリオ)を作成することにし、改善を行っています。

今回の評価結果の詳細については下記ページをご覧ください。

( [http://www.niad.ac.jp/sub\\_hyouka/ninsyou/hyoukahou200603/kousen/miyagikousen.pdf](http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou200603/kousen/miyagikousen.pdf))

機関別認証評価は、「自己評価書」を中心として行われますが、本校の「自己評価書」については

( [http://www.niad.ac.jp/sub\\_hyouka/ninsyou/hyoukahou200603/kousen/jiko\\_miyagikousen.pdf](http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou200603/kousen/jiko_miyagikousen.pdf)) をご覧ください。

なお、本校は平成16年度に行われた「大学評価・学位授与機構」による「高等専門学校機関別認証評価(試行的評価)」にも率先して参加しました。そのときの評価結果については下記ページをご覧ください。

([http://www.niad.ac.jp/sub\\_hyouka/ninsyou/hyoukahou/miyagi.pdf](http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou/miyagi.pdf))